

教育に関する事務の管理及び執行状況に  
係る点検評価報告

(平成22年度事業)

平成23年8月23日

酒田市教育委員会



# 目 次

1 点検・評価制度の概要	1
2 点検・評価の対象	1
3 学識経験者の知見の活用	2
○ 酒田市教育振興基本計画体系図	5
4 点検・評価の状況	6
I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
(1) 確かな学力の向上	
・ 学力向上対策の充実	6
・ 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)	7
・ 読書活動の推進	8
・ 特別な教育ニーズへの推進	9
(2) 豊かな心と健やかな体の育成	
・ 体験活動、交流活動の推進(1)	10
・ 体験活動、交流活動の推進(2)	11
・ 相談支援体制の充実	12
・ 食育の推進	13
(3) 家庭、学校、地域との連携	
・ 家庭教育の支援	14
・ 地域教育力の向上・地域活動の活性化	15
(4) 教育環境の整備	
・ 学校施設の整備	16
・ 学校規模の適正化の推進	18
・ 通学の安全確保	19
・ 学校ICT環境の整備充実	20
・ 教育の機会均等	21
(5) 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・ 教職員研修等の充実	22
・ 学校運営の公開と学校評価システムの推進	23
・ 特色ある学校づくりの推進	24

## II 世代を超えてまなびあう

### (6)生涯学習の充実

- ・生涯学習社会の基礎づくり・学習機会の提供・地域活動の活性化 ..... 25
- ・学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携 ..... 26

### (7)図書館活動の充実

- ・図書館機能の充実 ..... 27
- ・光丘文庫の保全と活用 ..... 28
- ・子どもの読書活動の推進(再掲) ..... 29

## IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

### (10)歴史・文化遺産の保存と活用

- ・文化財等の保存及び活用 ..... 30

### <参考資料>

- ・地域の教育力向上事業実績 ..... 31
- ・生涯学習推進講座開催事業実績 ..... 32
- ・東北公益文科大学市民講座開催事業実績 ..... 33

## 1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第27条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

### 《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価の対象

平成22年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成22年4月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策、今後おおむね5年間で重点的に取り組む施策を中心に、23施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は、P.2のとおり。

## 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、法第27条第2項の規定により、学識経験者の知見の活用を図ることとなっているが、学識経験者2名より各分野に関して意見をいただいた。

〔学識経験者〕

市立第六中学校元校長 名和 弘  
東北公益文科大学准教授 和田 明子

## 教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

### I 評価について全体を通じた意見

#### (1) 学校教育課について

「小学校と中学校の連携」「市立図書館との連携」「福祉課発達支援室・県立酒田特別支援学校との連携」など、「連携」が成果をあげていくためのキーワードであるように見受けられる。連携が円滑に行われるためには、学校長をはじめ当該組織の長の姿勢が重要であると感じる。連携しやすくなるような環境を整備するのは長の役目であるし、長の理解がなければ連携は進まないからである。「縦割り行政の除去」を意識したマネジメントが今後いっそう行われていくことを望みたい。

#### (2) 管理課について

本点検評価が始まり数年が経過した。「酒田市教育振興基本計画」に基づき点検評価を行うという方式は適切であると感じるが、「施策（＝目的）を達成するのに最適な事業（＝手段）となっているか」という視点からの点検評価をいっそう徹底するために、様式を改善するなど来年度に向けた工夫をさらに行ってはどうか。

## Ⅱ 各事業についての意見

### 1. 確かな学力の向上について

(1) 「改善することができた」、「充実させることができた」等の文言の根拠が明確でないので事業評価としての成果や課題についての言及が困難である。向上目標に対しては効果を見せた姿勢を明示して欲しい。

(2) 学力検査の目標とする数値を(記載するか否かは別として)、達成値をもって欲しい。

(3) 10年以上実施してきた施策(はばたきなど)については、内部評価のみならず外部評価(事業の効果、重要性の評価)も取り入れて、次期、教育振興計画策定へ準備のためにも検討する時期にきているのではないだろうか。

(4) 図書管理システムは、子どもたちの将来の図書館利用を促す意味でも有意義な事業である。さらに効果について明示して欲しい。

(5) 支援員の配置について、各学校での成果が大きい。さらに、支援員1名に対して、どの程度の児童生徒数にしていくのか、配置の基準を明確にすることが必要である。また、児童生徒とのかかわりをもつ事業は、師弟の信頼関係が大切であるので、子どもに真摯に向き合っている支援員、かかわっている子と相性の合う支援員等は継続採用するなど考慮して欲しい。

### 2. 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 体験活動の諸施策は参加者が増加しており評価できる。春の体験活動は、学校の行事や体験活動とのダブリがないのだろうか。開催時期、内容の精査が必要と思われる。

(2) 不登校が減少したことは大変喜ばしいことであり、関連した事業の効果が窺われる。しかし、教育相談研修講座は、長年実施してきたので、その内容や効果等を精査し、酒田市の教育課題解決に資するような研修内容になるように、広く見直す必要がある。

### 3. 家庭・学校・地域との連携

(1) 家庭教育の支援施策は、参加者の減少傾向が見える(事業執行の困難さを理解できるが…)。事業執行には柔軟な姿勢も必要であるが、常に、ニーズ、事業の重要性、効果を精査し、実施方法(周知方法も含め)の検討も必要である。

(2) コミセンへの委託事業は、企画立案の人材やリーダーに苦慮している姿が見える。現場に対して社会教育指導員のさらなる支援が欲しい。相談回数や支援回数を増やせないか検討して欲しい。

### 4. 教育環境の整備

(1) 学校統合により学校運営の活性化が図られていることは評価できる。今後とも学区民の理解には、丁寧な対応を行い、統合による地域の環境の変化を敏感にとらえ対処して欲しい。

(2) 小規模小学校から入学した生徒にとって、大きな生活集団・学習集団に適應することは難しいことと思われる。個々の生徒が適應できるように、きめ細かい指導とケアを、学校と協力して行って欲しい。

(3) 学校統合による児童生徒の不安を解消し、さらに、健全育成のためには、地域との連携が重要であると思われる。地域とのパイプを太くして連携を深めて欲しい。

#### 5. 信頼される学校、開かれた学校づくり推進

(1) 研修は、個々の教員の力量形成が大切であることは容認できるが、一方、酒田市の教育課題解決のためのリーダー育成、次世代の人材育成という面は大切である。優秀教員の長期の研修はぜひ積極的に進めて欲しい。

(2) 学校で実施している学校評議員制度は、各学校が抱える課題、酒田市の教育課題を把握できる良い機会である。各評議員の意見を集約する等も考慮して欲しい。

※学校の信頼性の維持のためにも教職員の綱紀粛正と心身の健康管理には万全をつくり取り組んで欲しい。

#### 6. 生涯学習の充実

(1) 生涯学習事業の満足度は85%以上を目標としていることは妥当と思われる。参加者が1実施回数に対して60名とまずまずの数である。今後とも、内容の充実を期待したい。

(2) 各コミセンは生涯学習社会の拠点である。事業の推進のためのコーディネーターの育成と配置が急務である(前述)

(3) 22年度、3サークルが立ち上がったことは評価できる。また、教室・講座からサークル化への道筋が明確にしていることは評価できる。市民のニーズからサークルづくりまでの道筋を市民に周知できれば、さらにこの施策の拡がりが見られると思われる。

(4) 「生涯学習推進講座」は民間で提供されている講座と競合する可能性がある。「民間ではなく市が提供する意義は何か」を再確認した上で、講座のあり方を再検討するとよいのではないか。

#### 7. 図書館活動の充実

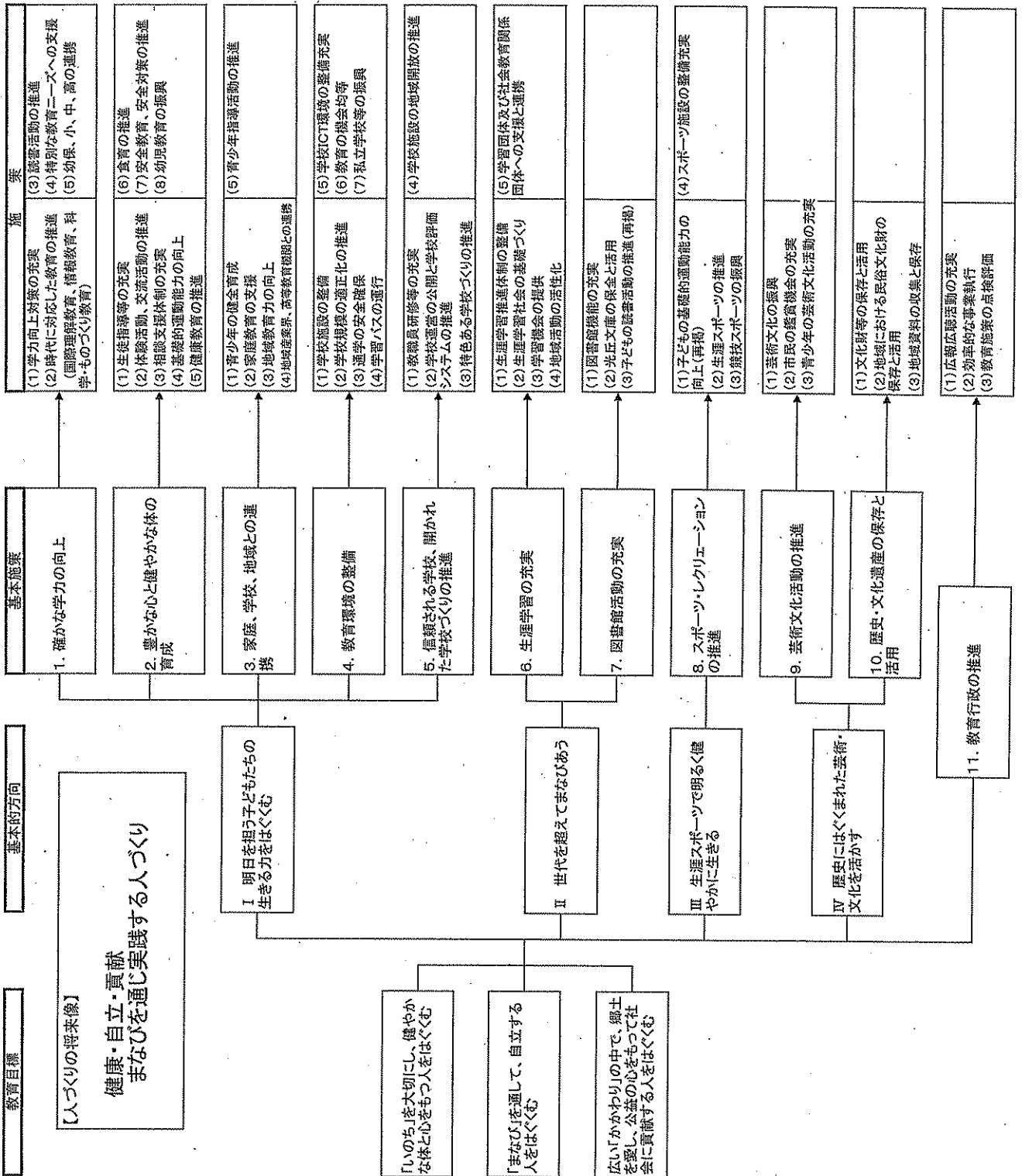
(1) 酒田市教育活動推進計画の実現のために、「酒田市子ども読書活動推進計画」を策定したことは大きな意義がある。

(2) 当推進計画が実効あるものにするための方策を、年次的な計画を含め精査していく必要がある。とくに家庭での読書をどのように推し進めていくのか、成人の読書する雰囲気醸成や、その方策を検討する必要がある。難しい課題なので根気強く取り組んで欲しい。

(3) 「酒田市子ども読書活動推進計画」は、「子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくり」という目的を達成するために最適な事業内容となっているかを絶えず点検し、内容を改善しながら事業を進めていって欲しい。



# 酒田市教育振興基本計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	学力向上対策の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	<p>学習指導要領に対応した授業等の改善、少人数指導等による指導法の改善を通し、小中9年間を見通したまなびを推進することで、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指す。</p>
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校で実施した46回の授業研究会に延べ139名の指導主事等を派遣し授業改善に向けた指導・助言を行った。</li> </ul> <p>○学力向上対策事業【予算額10,326千円】【決算額10,104千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校4年生から中学3年生までの全児童生徒を対象に、学力検査を実施した。また、その結果をもとに小中学校長会の検討会で調査分析し調査報告書を作成した。</li> <li>・小中のつながりを意識した算数、数学の授業改善・学習意欲向上のための研究を行った。</li> <li>・読書指導や図書館運営の充実を図るため、研修会を実施した。</li> </ul> <p>○教育研究所運営事業【予算額943千円】【決算額805千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・領域毎の研究部で授業研究会や研修会を合計94回実施した。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の要請に応じ、指導主事が授業研究会に参加し、新学習指導要領に基づく授業のあり方や学校研究の進め方等について指導助言を行い、授業改善に資することができた。</li> <li>・学力検査を実施することにより、各担任、学校が個々の児童生徒やクラス、学校全体、そして市全体の学力状況(学習の到達状況)を把握できた。また、これまでの学習指導の検証と改善、上学年の結果を踏まえた指導方法の改善に活用された。</li> <li>・研究推進校における算数、数学の学習意欲の向上につながる指導の充実が図られた。</li> <li>・使いやすい図書館づくりや各教科と図書館のつながり、図書専門員と教員の連携の在り方等について学ぶよい機会となった。</li> <li>・各教科領域等の研究部で講演会や研修会を開催し、指導と評価にかかわる情報交換や現在の教科指導の動向などについて、共通理解を図ることができた。特に、新指導要領に係る研修会を充実させることができた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の小学校の完全実施と中学校の移行最終年度として、学力の諸要素に留意しながらも、子どもたちが将来生きていくための確かな学力の定着について、地区をあげて実質的な成果を目指す。</li> <li>・酒田の児童生徒の学力状況を把握することは、児童生徒の学習の到達状況や課題をとらえるために必要であるため、今後とも継続していく。また、小学校と中学校の連携や算数・数学、英語の授業力向上に向けた研究、読書指導や図書館運営の充実のための研修をさらに推進していく。</li> <li>・教育研究所では、国語、社会、算数・数学、理科、英語部会を重点部会として研修活動の充実を図る。</li> </ul>

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課・管理課
事業の目的及び目標	時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○中学生海外派遣事業「はばたき」【予算額 当初6,550千円】【決算額 5,524千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24名の中学生(男子7名、女子17名)をオハイオ州デラウエアとニューヨークに派遣。デラウエア市の中学校では日本文化紹介の時間を設け積極的に紹介できた。</li> </ul> <p>○外国人英語講師招致事業【予算額14,688千円】【決算額13,639千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中高に4名の英語講師を配置し、中高生の英語、小学生の外国語活動のチームティーチングでの指導にあたった。小学校5、6年生に全クラス年間9時間の訪問を行った。</li> </ul> <p>○情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育担当者会において、情報モラル及び情報活用能力を育成するための授業活用参考資料を提供し、各校の指導に役立てるように依頼した。</li> </ul> <p>○理科センター推進事業【予算額1,368千円】【決算額1,023千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科教育に関する教員対象の研修会を4回開催した。児童生徒の理科研究発表会を実施した。(124作品(H21:127作品 H20:116作品 H19:126作品)が発表された)</li> </ul> <p>○中村ものづくり事業【予算額2,061千円】【決算額2,061千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろ科学ものづくり塾(年8回開催、塾生30名)、ものづくり科学教室(4領域、124名参加)、ものづくり出前授業(延べ20校、431名の受講者)を実施した。</li> </ul> <p>○ロサンゼルス四世バスケットボール協会交流事業【予算額510千円(当初)】【決算額510千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れ:8月18日(水)～22日(日) 総勢121名(選手23名)</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション中心の英語指導により、実践的な英語力の向上に役立っている。小学校の外国語活動では、児童に外国語を学ぶ楽しさを実感させることができています。</li> <li>・学年の発達段階に応じた指導を実践し、児童生徒がICTを活用する授業に活かすことができた。</li> <li>・理科教育に関する研修会には述べ73名(H21:83名、H20:94名)の教員が参加し、研修を行った。実験器具の正しい使い方や実感を伴った理解につなげるような新学習指導要領の完全実施に関わる研修を深めることができた。</li> <li>・ものづくりを通して実生活に応用できる科学的な考え方の素地を養うことができた。</li> <li>・ロス四世交流事業ではバスケットボールの交流試合やホームステイの受け入れなどを通して、本市青少年の国際的視野を深めるなど、次世代を担う青少年の育成に役立ったものと考えている。また、満足度調査においても100%満足していた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームステイ先で積極的に家族と会話することができ、有意義な交流ができた。ニューヨーク訪問の際は買いものや食事の場面などでできるだけ多くの英語を使うように意識させていく。</li> <li>・小学校での外国語活動でALTが有効に利用されるよう、ALTの共通理解を図っていく。</li> <li>・児童生徒がICTを活用する授業がより多く行われるように研修を深めていく。</li> <li>・理科の授業で行う観察・実験の指導のあり方についてより一層の研修を深める。</li> <li>・ものづくりに対する興味・関心を更に高めるような事業を展開していく。</li> <li>・ロス四世交流事業は、本市の青少年が異なる言語や異なる文化を持つ同年代の青少年と直接触れ合うことにより、国際的視野や異文化を受け入れる寛容性、協調性を養うためのものであり、平成23年度は本市の青少年がロスアンゼルスを訪問し交流事業を実施する。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	1. 確かな学力の向上					
施策	読書活動の推進					
担当部署	学校教育課、図書館					
事業の目的及び目標						
読書活動を充実させるため、本との多様な出会いの工夫をすると共に、読書に親しめる環境の充実を目指す。						
		H20	H21	H22	H26	H31
学校図書室貸出冊数	小	6.6冊	7.0冊	7.4冊	7.5冊	8冊
(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.6冊	0.5冊	1.5冊	2冊
H22年度 主な事業の概要及び実施状況						
<p>○各小中学校への図書専門員の配置</p> <p>35名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書館の環境整備を行った。</p> <p>○図書購入費の各小中学校への配当</p> <p>小学校16,055千円、中学校12,064千円の図書を購入した。</p> <p>○「酒田市子ども読書活動推進計画」策定に向けて内容の検討に協力した。</p>						
事業の効果						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書専門員により各小中学校の図書の適正な購入・整備、及び蔵書管理など、学校図書館環境の整備がすすんだ。</li> <li>・学校図書館の標準冊数充足率が100%を超えている学校数は小学校20校、中学校7校であり、市全体としては、小学校が108.0%、中学校が115.9%となっている。</li> <li>・朝読書、読み聞かせに加え、教科学習の中で図書館を活用することが増え、読書に親しむ環境が充実してきている。</li> <li>・平成22年度の学校図書館の一人当たり月平均の貸出冊数は中学校では校舎改築のため、図書貸出期間が減少した所があったため、減少しているものの、小学校では増加している。</li> </ul>						
点検結果・自己評価(課題・方向性)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書専門員の配置及び図書購入費の各小中学校への配当を継続して行い、標準冊数充足率が100%を超える学校の増加を目指し、学校図書館の環境充実を図る。</li> <li>・読書習慣の定着、読書力の育成のために、読書指導研修会や図書館教育研修会を充実させるとともに、より一層環境整備を進めるための、図書専門員研修会を実施する。</li> <li>・学校図書館の機能向上のため図書管理システムを導入し、蔵書管理・情報検索・貸し出し機能の充実を図り、各教科や総合的な学習の時間での調べ学習に十分な対応ができるようにする。</li> <li>・読書力育成のため指導者研修や蔵書の貸出について、市立図書館との連携を進める。</li> </ul>						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	特別な教育ニーズへの支援
担当部署	学校教育課、管理課
事業の目的及び目標	ADHD(注意欠陥多動性障がい)・LD(学習障がい)等、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学習適応支援員の配置 【予算額45,478千円+緊急雇用13,587千円】【決算額45,307千円+緊急雇用12,862千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任の補助を担当する学習支援員を小学校25校、中学校8校に合計45名配置した。うち、ADHD等特別な支援を必要とする児童生徒への対応に43名、複式学級への対応に2名を配置した。(H21は43名配置)。1日6時間、年間200日勤務</li> </ul> <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算額4,337千円】【決算額4,238千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の特別支援コーディネーター(教員が担当)を主な対象とし、児童生徒個々の障がいに応じた具体的手立ての研修を2回実施した。</li> <li>・保護者研修会(ペアレントトレーニング)の開催(5回×2グループ)・特別支援巡回相談員による巡回指導の実施(28校 延べ341回)した。(H22は延べ219回)</li> </ul> <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算額1,559千円】【決算額909千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒4名(4校)の対象者へ日本語指導講師を160回派遣した。</li> <li>・長期入院児童生徒への学習アドバイザーの派遣は要請なし。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画に基づき、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応が可能になり、また、その児童生徒の属する学級集団全体の活動もスムーズに行えるようになった。</li> <li>・すべての学校で支援を必要とする児童生徒の実態把握が進み、特別支援コーディネーターを中心に計画的な支援が行われるようになっている。また、事例をもとにした具体的な研修が行われ、実践に活かすことができた。</li> <li>・個に応じた日本語指導を行うことにより、児童生徒が学校生活に適應することに大いに役立っている。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習適応支援員の配置要求は全ての学校から出され、平成23年度に向け学校から支援対象としてあげられた児童生徒は438名となっており、今後も対象児童生徒の状況を元に配置を検討する。</li> <li>・特別支援教育対象幼児の早期発見と早期対応及び幼児期から中学生までを通した支援をより一層推進するためにも、福祉課発達支援室など関係機関との連携を図る。</li> <li>・特別支援教育に係る整備は着実に進んできてはいるが、県立酒田特別支援学校との連携体制づくりに向けて協議を進めていく必要がある。</li> <li>・今後も日本語指導を必要とする生徒が増加することが予想されるため、対応が必要とされる。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	体験活動、交流活動の推進(1)				
担当部署	学校教育課				
事業の目的及び目標					
日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに自主性や協調性を養い、生きる力を育む。					
		H20	H22	H26	H31
交流活動参加児童の満足度	飛島いきいき体験スクール	92.0%	98%	95%以上	95%以上
	少年の翼	100%	100%	100%	100%
H22年度 主な事業の概要及び実施状況					
<p>○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算額3,242千円】【決算額2,996千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12小学校、児童582名参加(H21:10校615名、H20:12校602名)</li> <li>・飛島小学校を活動拠点とし、2泊3日の野外観察やイカ釣りなどの体験学習および21年度から再開した飛島小学校の児童との交流を実施した。</li> </ul> <p>○少年の翼交流事業【予算額3,557千円(当初)】【決算額3,299千円】</p> <p>訪問:12月19日(日)～23日(木)小学5年生20名、小学6年生16名、受け入れ校:今帰仁小学校</p> <p>受け入れ:2月7日(月)～10日(木) 今帰仁村小学6年生36名、交流担当校:港南小学校</p>					
事業の効果					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛島いきいき体験スクールでは、各学校で行う自然体験活動を通して、自然のよさを学ぶ心を培い、協力する態度や判断し行動する力を養った。</li> <li>・飛島いきいき体験スクールでは、ほぼすべての実施校がねらいを達成できたと評価している。</li> <li>・少年の翼では体験や交流を通じた学習により視野を広げ、日本国内の異なった地域の文化・自然についての理解を深めることができた。平和学習では、日本の歩みと平和維持の重要性について再認識することができた。</li> <li>・少年の翼では満足度調査の結果は100%、内訳は「とても満足」33人、「満足」3人で、数値目標は十分達成している。</li> </ul>					
点検結果・自己評価(課題・方向性)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛島が持つ本市固有の学習フィールドとしての価値は、実施校すべてが認めるものである。次年度以降も飛島小学校と密接に連絡を取りながら、実施校だけでなく飛島小の児童及び職員にとっても有意義な事業となるよう検討していきたい。</li> <li>・飛島は離島であり、備品等を十分に管理できないことが課題となっているので、対策を検討していきたい。</li> <li>・少年の翼では行程として大きな問題はないが、じっくり体験できるような時間設定や交流のあり方について、学習内容のさらなる定着を図るような計画を検討していく。</li> <li>・酒田市内で飛島以外の自然体験フィールドを加え、生まれ育った酒田の自然を体験することができる各種条件を検討する。</li> </ul>					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	体験活動、交流活動の推進						
担当部署	社会教育課						
事業の目的及び目標	<p>・自然体験や野外学習、宿泊学習を通して、自然への理解や思いやりのある心豊かな人間性を育み、仲間作りを図る。</p>						
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち「さかたっ子・チャレンジ冒険団」が対象  実施回数は、3回で、延べ参加人数は56人となった。  募集に当たっては、カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布するほか、広報、ホームページへの掲載を行った。</p> <p>&lt;内容&gt;  対象 小学校4～6年生児童</p> <table border="0"> <tr> <td>①創造の森自然体験(羽黒)</td> <td>参加人数 9人</td> </tr> <tr> <td>②夏休み宿泊体験(八幡地区)</td> <td>参加人数27人</td> </tr> <tr> <td>③ミニファーム体験(平田地区)</td> <td>参加人数20人</td> </tr> </table> <p>(参考)H21年実績 3回 参加人数41人</p>	①創造の森自然体験(羽黒)	参加人数 9人	②夏休み宿泊体験(八幡地区)	参加人数27人	③ミニファーム体験(平田地区)	参加人数20人
①創造の森自然体験(羽黒)	参加人数 9人						
②夏休み宿泊体験(八幡地区)	参加人数27人						
③ミニファーム体験(平田地区)	参加人数20人						
事業の効果	<p>○昨年度に比較し参加者も15人程度増えているが、2回目と3回目については、ほぼ定員となり特に3回目は定員を超える申し込みがあった。参加者アンケートによる満足度も3回とも100%と非常に好評で、様々な体験を通し、子ども同士の交流、自然への理解を深めることができた。</p>						
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・安全面の徹底を図るため安全対策マニュアルを実践することで安全管理に努める。  ・本市の豊かな自然環境を活かした事業内容の充実にも努めるとともに、体験を通して自然環境の大切さを理解し、また、仲間作りを通して参加した児童が自らが生きる力を育むための体験活動、交流活動の学習プログラムの作成に努める必要がある。</p>						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	相談支援体制の充実						
担当部署	学校教育課						
事業の目的及び目標							
いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。							
		H20	H21	H22	H26	H31	
不登校児童生徒の割合	小	0.16%	0.15%	0.15%	0.1%未満	0.1%未満	
	中	1.92%	1.70%	1.53%	1.6%未満	1.3%未満	
H22年度 主な事業の概要及び実施状況							
<p>○教育相談充実事業【予算額7,462千円】【決算額7,150千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談室での来室・電話相談の実施(平成22年度 252件(新規74件)、平成21年度 249件(新規88件)、平成20年度 300件(新規95件))、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。</li> </ul> <p>○教育相談研修講座開催修事業【予算額371千円】【決算額158千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談研修講座を4回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施</li> </ul> <p>○適応指導教室(ふれあい教室)維持事業【予算額1,103千円】【決算額803千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指す。(小学生3名、中学生8名通級)</li> </ul> <p>○スクールカウンセラー等活用事業【予算額9436千円】【決算額9208千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)6名を各中学校と中央高校に、教育相談員9名を各中学校に、家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。</li> </ul>							
事業の効果							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒の割合は 平成22年度末 小0.15%、中1.53% となった。</li> <li>・学校の勧め等により教育相談室との相談が速やかに行われ、早期に問題に適切に対応することで深刻化を未然に防いだケースが増えた。</li> <li>・本市の教育相談課題に対応した各種の研修会を開催することにより、日々の指導に生かしてもらうことができた。</li> <li>・SCや家庭訪問相談員、教育相談室、学校との連携で、ふれあい教室に新たに通級ができるようになった生徒もいる。また、ふれあい教室で、多くの人との関わりを体験することで自信を取り戻せた事例が多くあった。</li> <li>・SC、各相談員の校内教育相談体制への位置づけが進み、その専門性を効果的に活用できるようになってきている。</li> </ul>							
点検結果・自己評価(課題・方向性)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談室の活用を更に進めるために、各学校への相談専門員の派遣や、ポスター、リーフレットの配付等を通して、児童生徒、保護者へ教育相談システムの周知を図っていく。</li> <li>・中学生の不登校が前年57名から50名へと減少したが、不登校のきっかけとなった主なものとして、本人に関わる問題、友達関係をめぐる問題が多く、人間関係づくりが課題としてあげられる。今後とも児童生徒の気持ちを認め自尊感情を大切にしながら指導するなどの支援を進めていく必要がある。</li> <li>・教育相談に係わる具体的事例を扱った研修活動の充実を図る。</li> <li>・引きこもり状態になっている児童生徒や保護者は関係機関とのかかわりが途絶えてしまう可能性があるため、家庭訪問相談員による訪問型の支援を増やしていく。</li> </ul>							



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成					
施策	食育の推進					
担当部署	管理課、学校教育課					
事業の目的及び目標						
<p>食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせる活動を進めるとともに、地元生産者等のネットワークをさらに広げ自然の恵みや生産者へ感謝する心を育む。</p>						
	項目	当初数値 (20年度)	21年度	22年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
	地元産野菜利用割合	小 46.1% 中 31.3%	小 48.3% 中 35.1%	小 38.0% 中 26.6%	小 50% 中 40%	小 50%以上 中 50%以上
H22年度 主な事業の概要及び実施状況						
<p>○週5日の米飯学校給食を実施した。</p> <p>○「酒田産給食」を実施した。(各学期毎に1回)</p> <p>○地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れた。</p> <p>○1週間の給食週間を設け、県内4地区の郷土料理と保護者から募集した献立を給食に取り入れた。</p> <p>○毎月「給食だより」を発行した。</p> <p>○栄養教諭、学校栄養士に食指導に関わる研修会を実施した。</p> <p>○栄養教諭による所属校の栄養指導を行った。(TTによる授業回数110回)</p> <p>○学校栄養士による巡回指導を行った。(指導回数120回)</p>						
事業の効果						
<p>・米飯学校給食を週5日実施し、日本型食生活の良さを再認識することができた。また、ご飯に合う献立の作成や酒田産給食等を実施し、地元産食材の利用を進めたが、高温等の影響で不作だったことから、地元産の確保が難しかった。</p> <p>・「給食だより」を通じて、旬の食材の情報や効用を知らせ、家庭での望ましい生活習慣を提示するとともに、巡回指導により直接児童生徒に対しても食と健康についての指導を行った。</p> <p>・研修会の実施により、市内小中学校における栄養教諭と、学校栄養士の食指導の充実を図ることができた。</p> <p>・募集献立を実施することで、保護者の給食に対する関心が高まった。</p>						
点検結果・自己評価(課題・方向性)						
<p>・県内4地区の郷土料理を給食に取り入れたことにより、郷土の食文化の理解が深まったことから、今後も多様な食文化を紹介していく。</p> <p>・平成22年度は、地元産を確保できない食材もあったが、今後も一層地元産食材の利用拡大をはかるため、収穫時期にあわせた献立の作成等、きめ細かに対応していく。</p>						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携
施策	家庭教育の支援
担当部署	社会教育課

#### 事業の目的及び目標

- 家庭は子どもの情操や人格形成の基礎を培う重要な教育の場であることから、保護者の学びを支援するため、保育園・幼稚園、PTAと連携した講座のほか、受講生を募集して講座を行う。
- 親子のスキンシップ、子どもとのコミュニケーション、子どもの心を学ぶことによって保護者から家庭教育の大切さを理解いただくとともに、保護者同士の交流を深める。

#### H22年度 主な事業の概要及び実施状況

○生涯学習推進講座開催事業のうち家庭教育講座が対象

家庭教育講座として4講座、67回実施し、延べ参加者数は4,105人となった。

区分	事業名及び対象	講座の内容	実施回数	人数
家庭教育	さんさん学級 (未就学児と保護者)	音楽・料理。いも掘り等体験活動	6	170
	すくすく出前講座(保育園、幼稚園児と保護者)	親子体験：(リトミック・焼物・積木・ダンス)等 幼児体験：ワークショップ(集団ルール・積木・アート)等	29	1,883
	地域家庭教育講座 (小中学校保護者)	講演・実技(読み聞かせ・生活習慣・子育てと生き方・健康管理・親の心構えと関わり方・子どもの心が見えますか)等	29	1,928
	家庭教育セミナー (保護者)	子育てに関するコーチング	3	124
計			67	4,105

参考 H21実績 4講座、実施回数69回 参加者4,295人

#### 事業の効果

- さんさん学級では、未就園児と保護者とのスキンシップを図り、子育て中の保護者同士の交流の場を提供することができた。
- すくすく出前講座では、保育園・幼稚園との連携によって、親子のスキンシップとコミュニケーションを深めることができた。
- 地域家庭教育講座では、小学校・中学校PTAとの連携によって、地域の状況に応じた内容で実施することで、家庭教育の大切さへの理解を深めることができた。
- 家庭教育セミナーとして、ワークショップ3回を実施し、子どもの心のコーチングについて、より実践的な学習を深めることができた。

#### 点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・全体の延べ参加人数をみると、家庭教育セミナーを文化センターから保護者が参集する小学校で開催する、出前型に改善したことで参加者の増が図られた。しかし、家庭教育講座全体では実施回数が2回減ったことから、延べ人数で約200名ほど減になっている。
- ・家庭教育セミナーについて、参加者が増えるよう、学校・PTAと連携し周知方法や実施内容を見直ししていく。
- ・その他の講座についても、参加者アンケートや実施報告書の内容を分析しながら、より参加しやすい講座となるよう工夫していく。
- ・家庭教育の重要性から、子どもの成長、発達段階における関係各課の事業と、社会教育における家庭教育の必要性を整理し、講座の見直しを行う。特に、就学前における家庭教育に関する講座プログラムの作成を検討する。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携
施策	地域教育力の向上・地域活動の活性化
担当部署	学校教育課、社会教育課、管理課
事業の目的及び目標	<p>地域の人々が教え、学びあい、世代間の交流と生まれ育った郷土の文化、自然に対する豊かな心をはぐくむため、人材の育成と地域の輪を醸成し、地域全体で「地域の子」、「社会の子」として、子どもと地域の交流できる機会を設ける。「かかわり」の中で、人付き合いや礼儀について学んだり、社会のルールを身につけたり、自分の考えをしっかりと伝える力をはぐくむ。</p> <p>また、地域に伝わる風習や伝統文化を活用するなど、地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を地域全体で取り組む体制づくりを進める。</p>
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち地域人材交流講座 地域の先生として、小、中学生に伝統文化や農作業、物作りなどを指導していただき、地域に根ざした人材活用と異世代交流を進めた。</p> <p>○地域の教育力向上事業【予算額7,101千円】【決算額6,607千円】 親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を実施していた。実施コミュニティ振興会25団体・延べ事業数135事業・述べ参加人数12,281人となった。(詳細は資料P.31参照)</p>
事業の効果	<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち地域人材交流講座 ・講師都合により4講座が中止となったものの、おおむね当初の計画通りできた。実施回数と人数は、小学校280回、6,551人、中学校78回、2,294人合計358回、8,845人となった。地域住民同士の交流が希薄になりつつある現在、地域・家庭・学校が手を結び合い、子どもの生きる力をはぐくみ、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として実施できた。 ・子ども達は、地域の先輩から生きた生活体験や歴史などを学ぶとともに指導する人達は教える喜びや新たな生きがいを見出している。</p> <p>○地域の教育力向上事業 ・地域の特色を生かした事業により、子どもたちが地域の各年代との交流(かかわり)や体験を通して、地域理解を深め生きる力の醸成が図られた。 ・地区コミュニティ振興会の情報交換会、事業説明会(学習会)を開催したことで各地区コミ振間の理解と事業の理解を深める事ができた。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・生涯学習推進講座開催事業のうち地域人材交流講座:地域住民同士の交流が希薄になりつつある現在、地域・家庭・学校が手を結び合い、子どもの生きる力をはぐくみ、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として有効であることから引き続き実施していく。</p> <p>・地域の教育力向上事業:本事業2年度目にあたり、対象の25コミ振全部で実施することができた。一つの小学校区に複数のコミュニティ振興会がある地域では、特に青少年健全育成の事業において、学校、PTAとの連携を深め、小学校区内のコミュニティ振興会間での事業の共同開催について指導・助言に努める。また、地区コミュニティ振興会間の情報交換も継続して実施する。</p> <p>・地域教育力向上事業に関するスキルアップ講座を引き続き実施し、リーダー育成と、社会教育的視点での地域課題を見出しながら本事業の内容充実を図っていく。</p> <p>・社会教育の支援体制として、社会教育指導員と職員による相談業務を継続して実施していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	学校施設の整備
担当部署	管理課

事業の目的及び目標

- ・旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じ改修・改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全安心な施設整備を図る。
- ・学校の良い教育環境整備を図る。

項目	算出方法	21年度	22年度(現状)	27年度	32年度
学校施設の耐震化の割合	耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小55.1%	小60.3%	小100%	小100%
		中62.5%	中68.1%	中100%	中100%

22年度は、宮野浦小体育館、一中校舎を耐震化

- ・酒田市耐震化計画に基づき、平成27年度を目標に特別の事情があるもの以外の耐震化を図る。

H22年度 主な事業の概要及び実施状況

- 耐震化の進捗率(H23. 3. 31現在):小学校が約60.34%、中学校が約68.18%
- 耐震診断事業(小学校)【予算額 15,120千円】【決算額 14,579千円】
- 耐震診断事業(中学校)【予算額 7,450千円】【決算額 7,445千円】

旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を確認するため、計画的に耐震診断を行う。

年度	耐震診断実施校数	備考
H19年度以前	4校	若浜小校舎、松原小校舎、第二中校舎、第一中校舎
H20年度	3校	広野小校舎・体育館、宮野浦小校舎・体育館、第二中校舎・体育館
H20・21年度	3校	亀城小校舎、松原小体育館、琢成小校舎・体育館
H21年度	4校	松山小校舎・体育館、松陵小校舎、飛鳥中校舎・体育館、鳥海中校舎
H22年度	3校	泉小校舎・体育館、富士見小校舎・体育館、松山中校舎

〔耐震関係事業〕

- 広野小学校屋内運動場改築事業【予算額 38,734千円】【決算額 38,734千円】  
屋内運動場の外構工事を行った。
- 第一中学校校舎改修事業【予算額 476,123千円】【決算額 473,957千円】【繰越額 541千円】  
【前年度繰入額 329,064千円】【決算額 311,398千円】  
校舎教室棟約3,284㎡の改築工事(H21、22継続)及び管理棟の改修工事、外構工事を行った。  
備品購入費は、H23へ541千円繰越し。
- 松原小学校改築事業【予算額 827,829千円】【決算額 458,418千円】【繰越額 369,140千円】  
校舎約4,781㎡の改築工事(H22、23継続)及び屋内運動場改築の設計、工事を行った。  
校舎改築工事はH23へ、53,518千円、屋内運動場改築工事はH23へ、315,622千円繰越し。

○第二中学校改築事業【予算額 972,665千円】【決算額 555,258千円】【繰越額 417,189千円】  
校舎の改築工事(H22、23継続)及び屋内運動場改築の設計、工事を行った。

校舎改築工事はH23へ、324千円、屋内運動場改築工事はH23へ、416,865千円繰越し。

○宮野浦小学校改修事業【予算額 179,315千円】【決算額 0円】【繰越額 179,315千円】  
【前年度繰入額 266,000千円】【決算額 246,522千円】

校舎、屋内運動場の改修工事を行った。

校舎改修2期工事はH23へ、179,315千円繰越し。

○琢成小学校改修事業【予算額 187,428千円】【決算額 7,665千円】【繰越額 179,763千円】  
校舎、屋内運動場の改修の設計、工事を行った。

改修工事はH23へ、179,763千円繰越し。

[その他の改修事業等]

○若浜小学校改修事業【予算額 48,038千円】【決算額 48,038千円】

老朽した給排水管、衛生器具等の更新改修の設計、工事を行った。

○松陵小学校駐車場整備事業【予算額 18,537千円】【決算額 9,088千円】【繰越額 9,448千円】  
既存駐車場の整備工事を行った。

整備工事はH23へ、9,448千円繰越し。

○施設整備事業(小学校)【予算額 23,683千円】【決算額 0千円】【繰越額 23,683千円】  
【前年度繰入額 22,536千円】【決算額 21,975千円】

主な改修内容:プール塗装(松原小、富士見小)、校舎屋根防水改修(浜中小)、防球ネット設置(若浜小)  
FF暖房機改修(新堀小、黒森小)、防火シャッター改修(泉小、新堀小、一條小)を行った。

○施設整備事業(中学校)【予算額 13,018千円】【決算額 0千円】【繰越額 13,018千円】  
【前年度繰入額 8,678千円】【決算額 8,678千円】

主な改修内容:防火シャッター改修(第三中、第六中)、校舎屋根保護塗装(第三中)  
受水槽改修(鳥海八幡中)を行った。

○学校エコ改修事業(小学校)【前年度繰入額 254,122千円】【決算額 190,396千円】  
対象小学校へ太陽光発電、エコサッシ、エコ照明の設置工事を行った。

○学校エコ改修事業(中学校)【前年度繰入額 119,067千円】【決算額 118,969千円】  
対象中学校へ太陽光発電、エコサッシ、エコ照明の設置工事を行った。

#### 事業の効果

- ・特別の事情のある学校以外の耐震診断は完了した。
- ・耐震診断の実施と計画的に改修・改築に取り組むことにより、学校施設の耐震化を推進することができた。
- ・施設の改修を行うことにより、学校施設の良い環境整備を図ることができた。

#### 点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・児童、生徒等の安全確保と災害時の避難場所としての機能確保のため、引き続き学校施設の耐震化を積極的に推進する必要がある。
- ・学校の良い環境を確保するために施設整備事業により、年次的にプール塗装、防火シャッター改修、FFストーブの改修、その他の改修を行う必要がある。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	<p>少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、学校教育に寄せられる時代の要請に応えるため、学区の改編により学校規模の適正化を図り、教育環境を整えていく。</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針</p> <p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校は(31学級以上)は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模・学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ① 学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ② 学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ① 学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ② 学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。適正配置に関する方針等に基づき、今後統合を進める学校。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一中学校と第五中学校(平成23年度実施)</li> <li>・第二中学校と平田中学校(平成24年度)</li> <li>・東平田小学校、中平田小学校及び北平田小学校(平成25年度)</li> <li>・亀城小学校と港南小学校</li> </ul>
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>●学区改編推進事業【予算額 1,323千円】【決算額 533千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区改編審議会の開催(2回)</li> <li>・第一中と第五中、第二中と平田中の統合準備委員会及び各部会を開催し、統合に向けた課題等の検討を行った。</li> <li>・「学区改編だより」や「教育委員会からのお知らせ」を発行し、地域の方々に統合の計画や統合準備の進行状況の周知を図った。</li> <li>・松山地域、平田地域において、「今後の教育を考える懇談会」を開催し、中学校の適正規模について、両地域の方々と課題等の共有を図った。平成23年2月、松山中学校と飛鳥中学校の統合について学区改編審議会に諮問し、審議いただいている。</li> </ul> <p>●学校統合事業【予算額 8,343千円】【決算額 6,246千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一中と第五中の統合中学校の校歌・校章デザイン作成委託、施設修繕、備品等の移転、閉校式典、閉校記念事業補助金、部活ユニホーム補助金等を支出した。</li> <li>・第一中、第五中の統合準備委員会の各部会において、統合に向けた課題等の検討を行った。</li> <li>・第二中、平田中の統合準備委員会の各部会において、統合に向けた課題等の検討を行った。平成24年4月の統合に向けて、引き続き事業を推進する。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合準備委員会を主体に課題の検討・整理を進め、平成24年4月に第一中学校と第五中学校の統合による新生第一中学校を開校した。</li> <li>・適正規模の教育環境が整ったことで、教職員の指導体制や生徒相互が学びあう環境が充実し、学校運営、部活動・生徒会等の学校活動の活性化が図られている。</li> <li>・その他地域でも統合準備委員会での具体的な協議や地域での話し合いにより学校の適正規模の必要についての理解が深まった。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一中・第五中統合時の校名問題の反省を踏まえ、今後は、地域住民と十分話し合い、理解と合意のもとに学校の適正規模適正配置に努めていく。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	通学の安全確保
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
児童生徒の通学の安全を確保するため、地域学校安全指導員の活動など学校、地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。	
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算額2,235千円】【決算額2,234千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員5名による各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。</li> <li>・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについて、市教委として見守り隊協力者や学校教職員26名に警察より証明を受け、回転灯の購入・貸与、パトロール車表示用ステッカーの購入・貸与を行った。</li> <li>・メール配信希望の保護者や地域の方々に不審者情報の一斉配信ができた。一斉メール配信システムのPRを小中学校、幼稚園の保護者等に行った。</li> <li>・不審者情報等の一斉メール配信システムの運用を行った。</li> </ul> <p>(登録件数5,094件(H23.6.1時点)、H22配信数15件)</p> <p>○遠距離通学対策【予算額37,751千円】【決算額35,082千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通年は、小学校概ね4km、中が高概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。</li> <li>・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、バス対応は約60日、定期券対応は3ヶ月分の経費の負担を行った。</li> </ul>	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を図りながら、各学校、機関相互の情報交換や酒田警察署と連携した活動を行うことができた。</li> <li>・パトロール車両として青色回転灯を装着し、パトロール地域での巡回を繰り返し行うことができた。</li> <li>・一斉退校や学級閉鎖に伴う下校時間の繰り上げ等の情報を個別に安全安心メールで配信したことにより、学校から保護者への連絡の手助けになった。</li> <li>・遠距離通学の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</li> </ul>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り隊連絡協議会やリーダー研修会を通して、相互の理解を更に図るとともに、パトロール実施者の増員を図る。また、各学区の安全マップの見直し・更新を学校・PTAに働きかけていく。</li> <li>・メール配信システムの利用登録者の増加のため、広報活動の強化拡大を図り、併せて、学校からの一斉下校等の情報も迅速に配信できるようにする。</li> <li>・冬期間のバスについては、地域の実態を把握した上で、適切な対応を進める。</li> </ul>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																									
基本施策	4. 教育環境の整備																									
施策	学校ICT環境の整備充実																									
担当部署	学校教育課																									
事業の目的及び目標	<p>時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めると共に、適正な運用を図る。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">授業でICT機器を使用 できる教員の割合</td> <td>小</td> <td>51%</td> <td>52%</td> <td>65%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>46%</td> <td>45%</td> <td>60%</td> <td>70%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								H20	H21	H22	H26	H31	授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	51%	52%	65%	75%	100%	中	46%	45%	60%	70%	100%
		H20	H21	H22	H26	H31																				
授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	51%	52%	65%	75%	100%																				
	中	46%	45%	60%	70%	100%																				
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○デジタルキャンパスネットワーク【予算額56,382千円】【決算額53,370千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校732台、中学校407台の教育用コンピュータをリースで整備しており、H22年度は370台更新した。</li> <li>・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。</li> </ul> <p>○学校ICT活用支援員の配置 【予算額22,464千円】【決算額19,821千円】商工港湾課ふるさと雇用再生特別基金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6名のICT支援員を配置し、飛鳥小学校を除く38校へ教職員のICT機器活用に係る各種業務の支援を行った。</li> </ul> <p>○各学校の情報教育担当者会、市教研視聴覚部会で、ICTを活用した授業についての研修を実施した。</p>																									
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC及びICT機器を授業で活用することで、情報活用や情報モラルについて学ばせ、児童生徒の情報化社会を生きる力を育てることができた。</li> <li>・各教科の授業において、PC及びICT機器を効果的に活用することで、より深い内容の理解をすることができた。</li> <li>・平成22年度末の授業でICTを活用できる教員の割合は小学校 65%、中学校 60%であった。</li> <li>・授業でのICT機器利用の提案やICT機器利用の補助により、授業で利用する各種素材の蓄積が進み、授業で活用する機会が増えてきている。</li> </ul>																									
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用コンピュータは今後とも児童生徒の情報活用能力の育成のために、定期的に更新をしながらリースによる整備を継続していく必要がある。</li> <li>・校務用コンピュータの安定運用のための保守を継続していく必要がある。</li> <li>・ICTを活用できる教員の割合をさらに高めるため、授業でのICT機器利用の支援や、ICT機器の活用方法等の研修の充実を図る。</li> </ul>																									



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	教育の機会均等
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	<p>大学等の修学や私立高等学校で教育を受ける際の経済的負担を軽減するため、市独自の制度による支援を行い、教育を受ける機会を確保する。</p>
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○大学等修学支援事業【予算額 3,417千円】【決算額 3,129千円】 本市出身の学生に対する大学等修学に係る経済的支援を図るため、教育ローンの利子を補給する。 新規交付 38件 1,305,859円 継続交付 52件 1,823,486円 計 90件 3,129,345円</p> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算額 3,288千円】【決算額 3,288千円】 私立高等学校に在籍している生徒の授業料等に係る負担軽減を図るため、補助金を交付する。 生活保護被保護世帯 2件 120,000円 市民税非課税世帯 56件 2,016,000円 市民税均等割課税世帯 32件 1,152,000円 計 90件 3,288,000円</p> <p>○京野基金大学修学奨励事業【予算額 1,500千円】【決算額 600千円】 経済的に困窮している世帯で、4年制の国立大学法人立、公立大学等に進学する本市出身の学生の保護者に、大学入学時に給付型奨学金として30万円を支給する。 交付件数 2名</p>
事業の効果	<p>○大学等修学支援事業 ・大学、短大、専門学校等への修学の動機付けとなるとともに、保護者の経済的負担の軽減を行った。</p> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業 ・私立高等学校に在籍している生徒の保護者の経済的負担の軽減を行った。</p> <p>○京野基金大学修学奨励事業 ・経済的に困窮している世帯の、優秀な生徒の修学支援を行った。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・教育を受ける機会の均等を図るためには、保護者の経済的負担を軽減することは重要である。</p> <p>・大学等修学支援事業については、大学修学に係る経済的支援を図るため、今後も継続していく必要がある。</p> <p>・私立高等学校生徒授業料軽減事業については、国の施策による私立高校生への支援金の支給が行われたが、無償化された公立高校生と私立高校生では、まだ保護者の経済的負担に差があることから、保護者の負担軽減を図るため継続する必要がある。</p> <p>・平成22年度より寄附金等を活用した京野基金大学修学奨励事業を実施したが、経済的に困窮している世帯の、優秀な生徒の修学支援のため継続していく必要がある。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の初任者研修を年2回実施した。(該当者11名)</li> <li>・市の教職10年経験者研修は5月に全体研修の実施と「知見を広める体験研修」として企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者2名)</li> </ul> <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力向上のための研修 理科センター事業として研修会を4回開催(延べ約80名の参加) 市教育研究所の各部会で新学習指導要領の完全実施に向けた教科指導等の研修会を合計94回開催</li> <li>・生徒理解のための研修 教育相談研修講座を4回開催(延べ約500名の参加) 教育相談担当者を対象としたスーパーバイザー研修会を4回開催</li> <li>・特別支援教育のための研修 特別支援コーディネーター資質向上研修を2回開催(延べ約140名の参加)</li> </ul> <p>○教員評価の試行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員について資質を向上させるために自己目標を設定させ、教員評価を試行した。</li> <li>・管理職においては、校内倫理委員会の充実を図るよう目標に掲げ取り組んだ。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修では、教員としての自覚を高め責任の重さに気づくとともに、市内の教育相談施設や幼稚園等を訪問することにより、改めて連携の大切さや学校教育の役割を再確認することができた。教職10年経験者研修では民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、教職以外の仕事の厳しさや難しさ、働く喜びや社会貢献の大切さを実感することができた。</li> <li>・教科指導力、生徒理解、特別支援教育とテーマに応じて研修会を開催したことにより、各分野とも参加した教員の指導力向上につながった。特に、児童生徒の言語力育成について研修する中で、指導の工夫や教材の選定・開発の重要性、現状における課題を明確にすることができた。</li> <li>・教員評価を実施したことにより、学校課題が職員間で共有化され、自己目標設定と達成に向けて取り組む中で各教員の意欲向上と、組織の活性化が図られた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領完全実施年度、中学校学習指導要領移行最終年度として、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるための実践に直結するような研修会を開催する。</li> <li>・教員としての責任を再認識し、いろいろな立場からの見方や考え方ができるよう視野を広めていきたい。</li> <li>・学校における教科指導・生徒指導力向上の研修を一層充実させるとともに、教員の資質向上に向けて、個々の教員のキャリアに応じた各種研修活動や教員評価を充実させる。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	学校運営の公開と学校評価システムの推進
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	信頼され開かれた学校づくりを進めるため、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校と酒田中央高校で学校評議員を委嘱し、学校運営に関する意見をいただいた。</li> </ul> <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、学校評議員に提示することで学校関係者評価が行われ、学校経営の改善につながる評価をいただいた。</li> </ul> <p>○学校支援地域本部事業の実施【予算636千円】【決算627千円】(県からの委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援コーディネーターを配置し、学校と地域の連携体制構築のための活動を行った。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方へ授業や学校経営の方針等を公開することで、地域・家庭との教育目標の共有と円滑なコミュニケーション作りに役立った。</li> <li>・児童生徒、保護者のアンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価により学校経営の改善が進み、中でも児童生徒の安全の確保や学校生活の充実につながった。</li> <li>・学校支援コーディネーターの働きにより、学校を支援する地域のボランティアとの連携がスムーズに行えるようになった。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに今年度の重点や学校課題(評価の視点)を地域や保護者に示し、より学校経営の改善に生きる評価システムを推進していく。</li> <li>・学校支援地域本部事業は事業としては終了するものの、地域の方々が今後とも学校をサポートする体制が作られている。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ								
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進								
施策	特色ある学校づくりの推進								
担当部署	学校教育課								
事業の目的及び目標	地域社会や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の経営の柱として、特色ある教育活動を展開し、活力ある学校経営を推進する。								
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○特色ある学校づくり支援事業【予算額5,700千円】【決算額5,646千円】</p> <p>各小中学校において取り組んでいる特色ある学校づくりに係わる教育活動等に対し、1校当たり150千円を交付した。</p> <table border="0"> <tr> <td>地域連携のための活動を主なものとしている学校</td> <td>20校</td> </tr> <tr> <td>児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校</td> <td>15校</td> </tr> <tr> <td>学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校</td> <td>10校</td> </tr> <tr> <td>児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校</td> <td>7校</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※学校数は延べ数</p>	地域連携のための活動を主なものとしている学校	20校	児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	15校	学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	10校	児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	7校
地域連携のための活動を主なものとしている学校	20校								
児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	15校								
学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	10校								
児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	7校								
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が新たに解決すべき課題を明確にし、めざす学校像・児童生徒像の焦点化が行われた。</li> <li>・特色ある学校づくりで、取り組もうとする内容をテーマ化したことで、児童生徒がより豊かな学校生活を過ごせるようになった。</li> <li>・成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校評価の結果等を5段階で評価した。各観点の平均は4.0となった。(H21年度4.1)</li> <li>・地域の伝統文化を継承する活動に取り組み、地域の方々とふれ合うことにより、地域理解を深め、郷土を愛する心、優しい心を育むことができた。</li> <li>・地域の特産物を生かした商品開発や販売などの体験活動を通し、社会性を広げ、成就感・達成感を味わうことができた。</li> <li>・栽培活動や環境美化活動を通して、命の大切さや思いやりの心、奉仕の心を育てることができた。</li> </ul>								
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定するテーマの重点化、焦点化を更に進め、学校の特色づくりを推進していく。</li> </ul>								

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	生涯学習社会の基礎作り・学習機会の提供・地域活動の活性化
担当部署	社会教育課

### 事業の目的及び目標

#### 【目的】

生涯学習社会の基礎作り:市民が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に生涯学習できるように、市民ニーズの把握に努めるとともに、生涯各期での必要課題を設定し、各種講座等を開催する。

学習機会の提供:多様化する学習ニーズに応えるとともに、教室・講座の自主サークル化を促進し、サークルリーダーの育成と指導者の養成に努める。また、市民が自らを高めるため、市民大学講座等で新しい課題に関する学習機会の提供に努める。

#### 【目標】

項目	26年度	31年度
生涯学習事業の満足度	83%	85%以上

### H22年度 主な事業の概要及び実施状況

○生涯学習推進講座開催事業【予算額 6,995千円】【決算額 5,283千円】

・市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を49講座、実施回数629回開催して、延べ参加人数は37,118人となった。

幼児講座－5講座、実施回数25回、延べ参加人数1,054人、少年講座－11講座、実施回数423回、延べ参加人数11,030人、青年講座－6講座、実施回数34回、延べ参加人数503人、成人講座【教養・文化・健康講座】－15講座、実施回数50回、延べ参加人数1,187人、家庭教育講座－4講座、実施回数67回、延べ参加人数4,105人、指導者養成講座－5講座、実施回数13回、延べ参加人数251人、催し－6講座(内、震災により3講座中止)、延べ参加人数18,988人となった。(詳細は別紙資料P.32参照)

※成人講座に東北公益文科大学市民大学講座・出前講座を含める。

### 事業の効果

○生涯学習推進講座開催事業

・各世代の課題に対応した講座を開催し、多くの参加者を得ることができた。満足度は90%となって、目標を達成できた。

・東北公益文科大学市民講座は「コミュニティを考える」を現代的課題として選定し、地域を見直す機会とした。また、受講生も目標である50人を得ることができた。出前講座は各団体、サークル等のニーズに沿った講座を開設することができたことから、受講団体には大変好評であった。

・成人趣味教養講座、指導者養成講座:22年度のサークル化は3団体となった。

### 点検結果・自己評価(課題・方向性)

○生涯学習推進講座開催事業

・参加者のアンケートなどを参考にして、各年代の課題や住民のニーズを把握しながら事業の見直しを行なっている。参加者の満足度は50%～100%であり、83%以上の講座がほとんどであるが、より満足されるような講座編成の見直しが必要である。また、成人・青年層への働きかけや青少年の事業を引き続き展開していく。

・東北公益文科大学市民大学講座は、昼・夜の学習時間帯とテーマを考慮すると、比較的高い年齢の方々の受講者が多くなる傾向にあるが、継続して受講する市民が多いことは学習意欲の高まりと評価できることから、今後もさらにテーマの設定やPRの方法を検討し広範な年齢層の参加を図っていく。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	<p>・生涯学習団体による自主活動を推進するための運営費に対して支援する。</p>
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習振興支援事業【予算額 799千円】【決算額 799千円】</p> <p>(1) 子ども会育成連合会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 90千円</li> <li>・補助団体 酒田市子ども会育成連合会</li> <li>・活動内容 子どもまつり・酒田まつり参加、リーダー学習会、関係機関交流会、会報発行ほか</li> </ul> <p>(2) 海洋少年団補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 144千円</li> <li>・補助団体 酒田海洋少年団</li> <li>・活動内容 子どもまつり参加、通常訓練、合宿訓練、全国大会ほか</li> </ul> <p>(3) 婦人会連絡協議会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 330千円</li> <li>・補助団体 酒田市婦人会連絡協議会</li> <li>・活動内容 酒田・鮎海大会、研修会ほか</li> </ul> <p>(4) 酒田市青少年を伸ばそう市民会議補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 135千円</li> <li>・補助団体 酒田市青少年を伸ばそう市民会議</li> <li>・活動内容 青少年の健全育成に係る会員研修、啓発活動ほか</li> </ul> <p>(5) 白鳥を愛する会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 100千円</li> <li>・補助団体 酒田市白鳥を愛する会</li> <li>・活動内容 自然環境づくり(マコモ植栽)、花植え環境整備、白鳥観察会ほか</li> </ul> <p>○生涯学習施設「里仁館」支援事業【予算額 7,300千円】【決算額 7,300千円】</p> <p>教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施している「里仁館」の運営費に対して支援した。</p>
事業の効果	<p>○市子連支援を通じ、団体の行なう、リーダー育成 危険訓練により、市の単位育成会における危険予知活動の実践徹底が図られた。</p> <p>○白鳥を愛する会の支援を通じ 市内小中学校での課外環境学習の普及が図られた。</p> <p>○青少年を伸ばそう市民会議の支援を通じて、市民向けの青少年育成環境浄化や啓発活動の徹底が図られた。</p> <p>○その他、生涯学習振興支援事業による補助金の交付で、それぞれの団体の活動の活性化に資することができた。</p> <p>○生涯学習施設「里仁館」支援事業により、里仁館の主権事業を通じ、47テーマ、開講数102回の生涯学習の機会を提供できた。またこれに対し、延べ数4,739人が受講した。</p>
点検結果・評価(課題・方向性)	<p>○生涯学習団体が主体的に実施している有益な教育活動に対し、引き続き運営費に対しての支援をおこなってゆく。</p> <p>○生涯学習施設「里仁館」支援事業:地域が主体となって運営する生涯学習施設で、庄内地域の生涯学習の振興に寄与している。</p>

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう																					
基本施策	7. 図書館活動の充実																					
施策	図書館機能の充実																					
担当部署	図書館																					
事業の目的及び目標																						
<p>市民の生涯学習の拠点として、図書資料や窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。</p>																						
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>算出方法</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>5年後 (26年度)</th> <th>10年後 (31年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">図書館利用状況</td> <td>館外貸出冊数</td> <td>561,434冊</td> <td>563,882冊</td> <td>587,000冊</td> <td>667,000冊</td> </tr> <tr> <td>館外貸出人数</td> <td>155,889人</td> <td>156,330人</td> <td>160,000人</td> <td>165,000人</td> </tr> </tbody> </table>						項目	算出方法	21年度	22年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)	図書館利用状況	館外貸出冊数	561,434冊	563,882冊	587,000冊	667,000冊	館外貸出人数	155,889人	156,330人	160,000人	165,000人
項目	算出方法	21年度	22年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)																	
図書館利用状況	館外貸出冊数	561,434冊	563,882冊	587,000冊	667,000冊																	
	館外貸出人数	155,889人	156,330人	160,000人	165,000人																	
H22年度 主な事業の概要及び実施状況																						
<p>○館外貸出の状況 館外貸出冊数は、一般図書が392,015冊、児童図書が171,867冊で合計563,882冊になった。館外貸出人数は、156,330人であった。</p> <p>○お話会や各種講座の実施 児童図書室での定例のお話会は21回実施し、延べ397人の児童と保護者が参加した。読み聞かせボランティア講座は、6回実施し延べ125名が参加した。家庭読み聞かせ講座は、52名が参加した。また、新年度の事業に向けたブックスタートボランティア講座は、4回実施し延べ113名が参加した。</p> <p>○図書リサイクルの実施 除籍本の無償譲渡を行い、509件の個人・団体の参加があり好評を得た。</p>																						
事業の効果																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出人数・冊数ともに前年度同様に堅調な伸びを示している。</li> <li>・お話会や家庭読み聞かせ講座は、幼児期からの読書習慣の形成と親子のふれあいの場の提供にもなった。</li> <li>・ブックスタートボランティア講座の参加者のうち、25名からボランティアとしての登録があり、参加者の熱心な姿勢が伺われた。</li> <li>・レファレンス件数は、前年並みの11,744件であった。</li> <li>・インターネットによる予約件数は、18,121件から19,455件に増加し、システムの機能が活用された。</li> </ul>																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標数値は、5年後の目標値を達成しうるペースで伸びており、今後もペースを維持できるように、新刊紹介のPRや企画展示等に努力するとともに、施設についても検討を進める。</li> <li>・郷土資料の充実のため、引き続き資料収集等に力を入れる。</li> <li>・23年度から実施するブックスタート事業を成功させるため、ボランティアの活用についても関係課と検討を行う。</li> <li>・23年度のレファレンスデータベースシステムの導入に向け、過去の回答内容等を精査し、より適切な対応を検討する。</li> <li>・中、高生が学習室を利用する機会が多いため、他の部署との連携により十分なスペースが確保できるように検討する。</li> </ul>																						

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう														
基本施策	7. 図書館活動の充実														
施策	光丘文庫の保全と活用														
担当部署	図書館														
事業の目的及び目標	<p>大正14年に竣工され、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持・保存を行う。館内には、本間家三代当主の本間光丘の時代から収集された古文書等が数多く所蔵されており、その分類・整理をはじめとして、資料を活用した企画展示を行う。</p> <p>また、これらの貴重な資料の閲覧に訪れる全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行い、資料を適切に管理し、あわせて利用者の拡大を図る。</p>														
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家も訪れている。</p> <table border="0"> <tr> <td>常設展示(17ケース)</td> <td>前期</td> <td>国書 49冊、漢籍 14冊、郷土 6冊</td> <td>計 69冊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後期</td> <td>国書 94冊、一般 36冊</td> <td>計 130冊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ひな祭り</td> <td>国書 22冊、一般 14冊、漢籍 1冊</td> <td>計 37冊</td> </tr> </table> <p>レファレンス処理件数 42件</p> <p>○館報「光丘」を年3回発行した。(第136号 6/1、第137号 10/1、第138号 2/1)  将来構想の検討については、過去に、建物の現況調査を含めて在り方を検討したものの結論に至らなかった経緯がある。22年度においても、具体的な方向性は示せなかった。</p>			常設展示(17ケース)	前期	国書 49冊、漢籍 14冊、郷土 6冊	計 69冊		後期	国書 94冊、一般 36冊	計 130冊		ひな祭り	国書 22冊、一般 14冊、漢籍 1冊	計 37冊
常設展示(17ケース)	前期	国書 49冊、漢籍 14冊、郷土 6冊	計 69冊												
	後期	国書 94冊、一般 36冊	計 130冊												
	ひな祭り	国書 22冊、一般 14冊、漢籍 1冊	計 37冊												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>2,982人</td> <td>2,553人</td> <td>4,509人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>347人</td> <td>320人</td> <td>304人</td> </tr> </tbody> </table>			算出方法	20年度	21年度	22年度	入館者数	2,982人	2,553人	4,509人	利用者数	347人	320人	304人
算出方法	20年度	21年度	22年度												
入館者数	2,982人	2,553人	4,509人												
利用者数	347人	320人	304人												
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方から来館される研究者の方々にも必要な資料を提供した。</li> <li>・館報「光丘」により、市内外の団体・個人に対して、郷土の紹介・解説を行った。また、毎回、酒田にゆかりのある著名人からの寄稿をいただきながら紹介した。</li> <li>・施設案内表示や常設展示のPR方法を工夫したことにより、入館者数の増につながった。</li> </ul>														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想の検討を進める。</li> <li>・資料の劣化が進んでいるため、その保存方法を検討する。</li> </ul>														



基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう														
基本施策	7. 図書館活動の充実														
施策	子どもの読書活動の推進(再掲)														
担当部署	図書館														
事業の目的及び目標	<p>子どもが気軽に読書に親しめ、読書活動が活発になることを目指して、子どもの読書環境を整える。</p> <table border="1" data-bbox="360 613 1393 804"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>目標 (27年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童図書の間貸出冊数</td> <td>167,375冊</td> <td>171,867冊</td> <td>183,000冊</td> </tr> <tr> <td>学校団体貸出の間貸出冊数</td> <td>2,510冊</td> <td>2,038冊</td> <td>3,000冊</td> </tr> </tbody> </table>			算出方法	21年度	22年度	目標 (27年度)	児童図書の間貸出冊数	167,375冊	171,867冊	183,000冊	学校団体貸出の間貸出冊数	2,510冊	2,038冊	3,000冊
算出方法	21年度	22年度	目標 (27年度)												
児童図書の間貸出冊数	167,375冊	171,867冊	183,000冊												
学校団体貸出の間貸出冊数	2,510冊	2,038冊	3,000冊												
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○平成23年2月に「酒田市子ども読書活動推進計画」を策定した。  ○乳幼児をはじめ、小学校の低学年・高学年、また中学生の各年代に適した選書を行った。夏休み期間は、課題図書や指定図書の他、作文・工作・自由研究などの分野別の展示コーナーを設けて、資料の提供を行った。  ○小・中・高校からの要望により、調べ学習等へ協力した。  ○児童図書の貸出冊数は、前年度より約4,400冊の増加となったが、学校への団体貸出冊数は、若干減少した。</p>														
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後における子ども読書活動推進事業の方向性が明確になった。</li> <li>・読書活動推進事業の推進関係機関との連携の強化を図ることができた。</li> </ul>														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館との連携の内容は、資料の貸出等にとどまっている状態であり、学校図書システム導入後における情報提供などより深い連携を検討する。</li> <li>・「子ども読書活動推進計画」について、23年度が初年度となるが、関係部署等との連携を深めて、効果があげられるように積極的に取り組む。</li> <li>・レファレンスシステムの導入に向けて、特に児童・生徒からの相談業務を充実させるため、過去の内容を精査する。</li> </ul>														

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	文化財等の保存と活用		
担当部署	社会教育課		
事業の目的及び目標	<p>文化財の保存と活用を図るため、有形文化財の適正な管理及び無形文化財の保護・継承を担う人材や団体を育成・支援する。</p> <p>そのために、文化財施設の公開や「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援するとともに、地域に所在する文化財について市民の理解を深めることに努める。</p>		
	項目	現状	5年後
	民俗芸能保存団体育成	31団体	33団体
			10年後
			36団体
H22年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ さかた歴史街道事業【予算額 1,799千円】【決算額 1,593千円】</p> <p>市内各地域に残されている貴重な文化財等の再発見事業として「史跡めぐり 観音寺街道を訪ねて」を開催した。また、「民俗芸能フェスタ」や「黒森歌舞伎酒田公演」を開催し民俗文化財の活用を図った。</p> <p>民俗芸能フェスタ H19 900名、H20 900名、H21 900名、H22 972名 黒森歌舞伎 H19 900名、H20 900名、H21 900名、H22 521名</p> <p>○ 文化財保存活動支援事業【予算額 1,025千円】【決算額 1,025千円】</p> <p>「酒田市民俗芸能保存会」活動を支援し、加盟団体に対する情報提供や長年の民俗芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各芸能の公演日などをまとめたプログラムを作成するなど加盟団体を広く市民に紹介した。</p> <p>H19 29団体、H20 31団体、H21 31団体、H22 31団体</p> <p>○ 旧鍛屋管理運営事業【予算額 7,456千円】【決算額 7,322千円】</p> <p>国指定史跡「旧鍛屋」を広く市民に公開し、また、四季折々の企画展示事業を開催するなど市民の文化財への理解を深めるとともに観光資源としての活用を図った。</p> <p>入館者数 H19 24,118人、H20 21,416人、H21 24,739人、H22 17,141人</p> <p>○ 旧阿部家管理運営事業【予算額 3,640千円】【決算額 3,316千円】</p> <p>市指定文化財「旧阿部家」を広く市民に公開し、各種の企画展示事業を実施するなど市民の文化財への理解を深めるとともに観光資源としての活用を図った。</p> <p>入館者数 H19 3,509人、H20 4,028人、H21 3,310人、H22 2,949人</p>		
事業の効果	<p>文化財を適正に管理保存するとともに、多くの市民に文化財に親しんでもらい、理解を深めていただいた。「民俗芸能フェスタ」は41回を迎え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と、他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や情報交換の場としても重要な役割を果たしている。また、幼児や小中学生の出演の機会を提供し、民俗芸能の底辺拡大も図ることができた。さらに、新たな動きとして市内の神楽、獅子舞の保存団体が一体となって、青少年層を取り込んでの保存伝承活動に取り組む動きが生まれてきている。そのような活動支援のために、県や民間の助成制度の情報提供等も行っていく。</p>		
点検結果・評価(課題・方向性)	<p>・民俗芸能などの文化財が地域の人々の誇りとなるよう、保存継承への意欲を育むとともに、文化財の保護・継承を行う人材や団体の育成・支援を行う。市民参加型のソフト事業などにも取り組み、これまで文化財に関心の薄かった幼児、小学生、及びその親への働きかけを強化する。施設入館者は、先の大震災等の影響で減少に転じたが、今後とも文化財を活用しながら市民が文化財保護への理解を深められる機会を積極的に提供し、入館者増をめざす。</p> <p>・未加盟団体の加盟促進に努める。</p>		

H22 地域の教育力向上事業実績

コ ミ 振 名	主要事業内容	事業数	参加人数 (人)	決算額 (千円)
西荒瀬コミュニティ振興会	育てよう！わくわく夢の森(クロマツ林の手入れと学習)、花いっぱい世代交流、日光川源流体験、干し柿づくり(児童が作製し、高齢者の一人ぐらしへ配布)、郷土料理教室(鮭を使った料理、)など	8	423	300
新堀コミュニティ振興会	最上川自然探検隊(最上川川下)、伝統芸能伝承(五カ村神楽舞)、世代間交流(稲作・七夕・凧作り、俵編 など)	5	673	300
広野コミュニティ振興会	三世代交流事業(花植え・料理講座、縄ない 餅つき・紅花育て・手作り玩具で遊ぼう)、伝統文化交流事業(庄内出羽人形)、地域の生い立ちを知る(旧跡を訪ねて)	8	586	300
浜中コミュニティ振興会	少年少女茶道教室、祖父母学級研究会、育児講演会、浜中・黒森交流会、綱引き教室、バドミントン教室	6	735	300
黒森コミュニティ振興会	孫親学級、6学年交流、(黒森・浜中交流会)、三世代くもりんピック)、少年歌舞伎・太鼓練習会、年越し大作戦(ボランティア活動)、黒森っ子育てネットワーク(映写会)	7	359	300
十坂コミュニティ振興会	読み聞かせ交流、孫親交流、親子ふれあい健康講座、パンジーサークル(伝統料理を学ぶ、地域講師・親子のふれあい、野菜の収穫感謝、先人の生活を学ぶ)	4	519	238
東平田コミュニティ振興会	農作業体験、花と子供と地域(花植え)、自然とふれあい(釣りでの体験交流)、世代交流孫とふれあい、郷土歴史体験(登り窯による陶芸づくり)	5	370	288
中平田コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)おぼけかぼちゃハロウィンコンテスト、子ども神楽、「どんぐり」の読み聞かせ会	5	553	300
北平田コミュニティ振興会	北風っ子クラブ(地域の先生による調理実習、作品づくり講座)・園児の茶道体験、お化けかぼちゃ・ひょうたん作り、など	4	211	164
上田コミュニティ振興会	花いっぱい運動(植栽から除草、水かけ作業まで通年で展開) 3世代交流(畑での野菜栽培～料理講座)上田太鼓教室	3	725	300
本楯コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業【史跡ウォークラリー(他)とたてグローカル・スタディ事業(農業体験・サクラマス放流体験とサイクリング他)もとたて地域つながり事業(ボランティア講習会、村の名人、通学合宿)	3	626	300
南遊佐コミュニティ振興会	母のぬもりコンサート、まなびの里教室(刺し子、カヌーなど)、世代交流スポーツ(ベタンク他)、すくすくみんなで交流、チャレンジそば打ち、里山自然観察会、	8	610	300
一條コミュニティ振興会	通学合宿、手作り探検隊(そば栽培から調理まで一連で実施)	2	645	300
観音寺コミュニティ振興会	にこにこ体験隊(田植と昔遊び、草取りと虫取りざっしめ、稲刈りとネイチャーゲーム、収穫感謝とだんご木作り)、鳥海山八森自然学校(雪中カルタとキノコの菌植え体験)	5	135	258
大沢コミュニティ振興会	地域交流事業、(太鼓演奏・料理教室・講話)、大沢清流太鼓伝承、通学合宿、畑の学校(野菜作りとチューリップの球植え)	4	1,018	300
日向コミュニティ振興会	日向ぼっこスクール(畑作業・ほたる鑑賞会・除草と流しそうめん・川の観察、裏山探検・宿泊研修・親子クリスマス会、ミニ雪祭りなど)、	10	459	300
南部コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(自然体験、地引網体験、農業観察、雪中ゲーム)、通学合宿、世代交流事業、音楽会、伝統芸能鑑賞会、そば打ち、手づくりおやつ体験、他	7	569	300
山寺コミュニティ振興会	作物栽培と料理講座、昔話と読み聞かせ、伝統芸能伝承(墨絵・茶道・生花・狂言他)、親子体験事業、蛍の里ウォッチング、小動物との触れ合い、他	9	1,606	300
松嶺コミュニティ振興会	チャレンジ教室(野菜作り・早起き体操・昔話と茶道体験・親子お菓子づくり・書初め・ふれあいスポーツ・ケーキ作り体験)	6	240	240
内郷コミュニティ振興会	グランドゴルフで遊ぼう、木工・陶芸教室、通学合宿、親子料理教室、新社会人ボランティアフェスティバル(中止)	5	92	241
田沢コミュニティ振興会	中学生サークル活動(地域活動に参加)、地元体験事業(鳥海登山)、刺し子教室、化学マジック教室、みそ作り体験教室、リースアレンジ教室、ほか	7	233	300
東陽コミュニティ振興会	野焼き体験教室・東陽通学合宿・そば打ち体験教室・料理教室	4	146	255
郡鏡・山谷コミュニティ振興会	水生生物生態学習会・縄ない体験と干し柿づくり	2	90	117
南平田コミュニティ振興会	伝統芸能伝承(飛鳥祭奴振り・楯橋神代神楽)	2	399	66
砂越・砂越緑町コミュニティ振興会	通学合宿、体験事業「科学マジック教室、竹細工、篆刻、石けんづくり)親子お菓子づくり教室	6	259	240
計		135	12,281	6,607

生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	人数
幼児	孫と一緒にリトミック	4	86
	音で遊ぼうリトミック	5	118
	わくわくちびっこ広場	3	364
	わらべのひな祭り展	11	446
	親子でヒップホップダンス	2	40
少年	さかたっ子・チャレンジ冒険団	3	56
	酒田マリーニジュニア合唱団	43	891
	新春書初め・もちつき大会(正月行事)	1	141
	わいわい出前講座	8	708
	子どもお菓子づくり	2	45
	特別出前講座「わたしたちの先輩」	3	212
	地域人材交流講座	358	8,845
	ほしぞら教室	2	44
	折り紙で作るお弁当講座	1	39
	親子で作るクリスマスケーキ	1	35
	親子で作るクリスマスリース	1	14
青年	コアリセット&マーシャルアーツ	9	167
	健康エクササイズ	9	75
	基本の料理	5	113
	花と緑の庭づくり	3	43
	殺陣入門講座	5	48
	アロマストレッチ	3	57
	かんたんエアロ+ヨガ	9	192
成人	デジタルカメラ入門	4	69
	旬の野菜で作る元気レシピ	5	103
	アフタヌーンティー	1	15
	浜の伝道師に学ぶ魚料理教室	5	68
	食文化にふれる「秋の和菓子」	1	23
	知ってアート・見てアート	5	46
	簡単リフレクソロジー入門	3	51
	三味線に挑戦	5	50
	フラダンス入門	5	59
	レカンフラワー教室	5	39
	篆刻体験講座	2	29
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:昼の部)	5	158
	東北公益文科大学市民講座(市民大学:夜の部)	3	88
	東北公益文科大学市民講座(出前講座)	6	197
家庭教育	さんさん学級	6	170
	すくすく出前講座	29	1,883
	地域家庭教育講座	29	1,928
	家庭教育セミナー	3	124
指導者養成	少年団リーダー研修会	2	57
	ホール音響・照明操作講習会	6	98
	16ミリ映写機操作講習会	1	6
	地域の教育力向上スキルアップ講座	3	77
	折り紙で作るお菓子講座	1	13
催し	出羽遊心館春の市民茶会	1	415
	文化講演会 期日 平成23年3月15日 講師 島田洋七氏 演題 『笑顔でいきんしゃい!』		中止
	生涯学習まつり2010 期間 平成22年10月15日～17日 参加団体72団体 会場 総合文化センター	1	17,733
	正月行事展	1	840
	凧揚げ大会		中止
	酒田マリーニジュニア合唱団定期演奏会		中止
合計		629	37,118

年度	講座数	実施回数	延べ人数
21年度	44	690	39,829
20年度	46	299	29,862

東北公益文科大学市民講座実績(内訳)

・市民大学講座

年間テーマ 22「コミュニティを考える」		
昼の部テーマ「暮らしと環境」		
区分	演題	受講者数
1	台所から地球環境を考える	31
2	暮らしの環境	37
3	高齢化社会と道路交通	33
4	中心市街地に住む	25
5	暮らしの環境を支える私たち自身に目を向ける	32
計		158

夜の部テーマ「家族の行方」を多角的に考察する		
区分	演題	受講者数
1	少子高齢化と家族	30
2	「公益的な民の力」を活かした地域づくり	32
3	地域で支える認知症高齢者へのケア	26
計		88

21年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	269
夜の部	5講座	108
20年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	133
夜の部	5講座	114

・出前講座

区分	テーマ	受講者数
1	地域の福祉力向上を目指して	41
2	町づくり活動の基礎講座	54
3	紅花の健康への効用について	42
4	暮らしの環境を考える	24
5	対人コミュニケーションにおける表情の影響	20
6	水の都ベネチア	16
計		197

年度	回数	受講者数
21年度	6回	201
20年度	8回	338